



日 本自動車会議所は2019年12月19日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第264回会員研修会を開催し、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)コンサルティング業務企画部チーフアドバイザーの松島憲之氏が「大再編期に突入した自動車産業～生き残りの鍵は事業ポートフォリオの大胆な変革と実行スピード～」と題して講演した。参加者は約100名。



松島 憲之氏

講演前日の18日、いすゞ自動車によるUDトラック買収や、フィアット・クライスラー・オートモービルズ（FCA）とPSAの経営統合の合意など、グローバルな再編の動きが相次いで報道された。松島氏はまず、これらのニュースを紹介し、「来年は本格的な再編がこれまで以上のスピードで進行すると考えています」と述べ、経営者の意思決定スピードの重要性を強調した。「情報革命、エネルギー革命、金融革命という3大変革が同時に進行しており、企業経営には変化に対応するスピードが要求される」との基本認識を持つためだが、「これだけの大きな

日本自動車会議所 業務部長に勝田 哲也氏

日本自動車会議所の業務部長に1月1日付で勝田哲也氏が就任した。伊藤和雄業務部長は12月31日付で当会議所を退任した。



勝田 哲也（かつだ・てつや）氏略歴

1992年、社団法人共同通信社に入社。編集局記者として、熊本支局を皮切りに、津支局、名古屋支社を経て、本社経済部へ。主に経済畑を歩み、自動車、金融、財界、官公庁などを担当した。石川県出身、51歳。

スケールの変革は歴史上初めて」とも話し、その渦中に置かれている自動車産業が「今後どうあるべきか」について、具体的な事例や豊富なデータを駆使しながら講演した。

松島氏は、▽持続的経営を実践するために必要なポイント、▽従来型ビジネスモデルの変貌と生き残り策、▽ESG投資、SDGs、TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）の企業価値創造への影響、▽大転換期に入った自動車業界の現状と課題、▽自動車産業大再編のシナリオ、▽世界市場の見通し、▽欧州メガサプライヤーの動向、▽電動化・バッテリー開発の課題と動向、▽先進的な企業の取り組みと具体的な事例、▽自動運転・CASE・MaaSのインパクトと今後の展望、▽脱化石燃料、▽水素・燃料電池戦略——などなど、取り上げたテーマは幅広く、それぞれの動向や課題などを解説しながら今後の自動車産業のあるべき姿について展望した。

訃

トヨタ自動車元副会長
日野自動車元会長
(当会議所元評議員)

岡本 一雄氏

トヨタ自動車元副会長で、日野自動車元会長の岡本一雄氏が12月9日、逝去された。75歳だった。岡

報

本氏はトヨタ自動車出身で、1967年4月トヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）に入社。1996年取締役、2001年常務取締役、2003年専務取締役、2005年取締役副社長、2008年取締役副会長を務められた。2011年6月に日野自動車代表取締役会長に就任され、2013年6月まで務められた。また、当会議所評議員も2011年6月～2014年6月まで務めていただいた。